

岡山畜産便り

2016 4

平成28年4月25日発行 第六十七卷第三号



岡山JA畜産(株)鎌の畦農場の皆さん(養豚)

もくじ

〔県民局だより〕

- 生まれも育ちも津山っこ！「つやま和牛」始動！
美作県民局畜産第一班 1

〔家保のページ〕

- 受精卵移植の多様化と様々な利用法
津山家畜保健衛生所 3

〔技術のページ〕

- 大麦WCSの調製と利用
岡山県農林水産総合センター
畜産研究飼養技術研究室 5

〔畜産現場の声〕

- 新たな取り組みと現場を支える輝くスタッフ
岡山JA畜産(株)美星鎌の畦農場 7

岡山大学農学部附属山陽圏フィールド科学

センター（津高牧場）の取り組み

～中国四国の各大学の学生を受け入れて

教育実習を行っています～

野久保 隆 8

〔ホットニュース〕

- ・平成27年度和牛シンポジウム真庭市で開催
・岡山県養豚振興協会主催
第49回豚枝肉共励会を開催
(一社)岡山県畜産協会 9

岡山県畜産関係者名簿 10

岡山県農業共済組合連合会 12

全農岡山県本部畜産部 13

おかやま酪農業協同組合 14

一般社団法人岡山県畜産協会 15

岡山県畜産関係各種協議会 16

〔Q&Aコーナー〕

- 牛マルキンの無事戻しの方法が変わります
(一社)岡山県畜産協会 17

岸化学グループ



株式会社 正和

岡山本社 〒712-8055 岡山県倉敷市南畠1丁目13番1号

広島事業所 〒738-0513 広島県佐伯区湯来町大字伏谷字今山137番58

福山事業所 〒729-3102 広島県福山市新市町相方1089-19

鳥取事業所 〒680-0906 鳥取県鳥取市港町51番地

津山事業所 〒708-1544 岡山県久米郡美咲町周佐1377-4

代表取締役 岸 小三郎

TEL 086 (450) 3807

FAX 086 (450) 4008

TEL 0829 (40) 5177

FAX 0829 (40) 5178

TEL 0847 (54) 2007

FAX 0847 (54) 2008

TEL 0857 (50) 1736

FAX 0857 (50) 1738

TEL 0868 (62) 1232

FAX 0868 (62) 1233

取扱品目

死亡牛・死亡豚他の処理

有機性汚泥

廃食油

動植物性残渣

医療廃棄物

GEA

ORION

ORION ROUTE PROGRAM

常に一生懸命さと高い意識を持つていてほしい。
だからこちらも信頼するようになる。

普段自分たちが気付かないことに
気付いてくれる。
どうしても機械に頼るものだから、
自分たちではどうしようもないことを助けてくれる。

常にプロの目線を持って、
牛舎を見て回ってほしい。
そして変化があったら教えてほしい。
機械に差を感じなくとも、
人には違いが出る。
最後はやはり『人』と『人』。
本物だけが最後に残る。

オリオンルートプログラム ORION ルートプログラマーは、日々全国の酪農家の皆さまの下に足を運び、機器の点検を始めとした経営向上のサポートをしています。

いつも「行く」からこそ見えてくる。



関東オリオン株式会社 酪農営業部
ルートマネージャー 島田和徳



中国オリオン株式会社

岡山本社 〒700-0945 岡山市南区新保680-1 TEL.086-239-1811

営業所：岡山・津山・広島・上下・鳥取・出雲・小郡・大阪

[県民局だより]

生まれも育ちも津山っこ! 「つやま和牛」始動!

美作県民局畜産第一班

1 津山にもA級ご当地グルメを

古くから食肉文化が根付く津山地域では、「干し肉」や「牛の煮こごり」に加えて「ホルモンうどん」や「そずり鍋」などが、ご当地グルメとして話題となっていました。

そうした中、生産から流通に至る多くの関係者が結集して「つやま和牛振興協議会」を立ち上げ、津山地域の食肉文化の核となり、地域活性化の起爆剤とするべく、「つやま和牛」の取組をスタートさせました。

こうした取組により、ついに今年、津山にA級ご当地グルメ「つやま和牛」が誕生しました。

2 つやま和牛って?

津山と牛の関わりは長く、慶雲2年(705年)には中山神社近くで牛馬の市が立っていました。津山の人々は牛に愛情と技を注ぎ込み、力が強く知性に富んだ役牛を育て、多くの優れた牛が出雲街道を経て全国へと巣立っていましたと言われています。

こうした時代を背景に、津山地域では今なお多くの和牛繁殖農家が優れた和牛子牛を生産していますが、残念ながら地域内に肥育農家は少なく、その多くが県内外の肥育農家へと出荷されていました。

こうした流れを変えるべく、地域内の繁殖農家が新たに肥育にチャレンジし、優れた“津山生まれの和牛”を地域内にとどめ、“津山産の餌”で育て、そして“津山で消費”する「つやま和牛」ブランドの取組がスタートしました。

○「つやま和牛」の定義

- ・津山生まれ津山育ち
- ・28ヶ月齢以上
- ・津山産小麦ふすまを300kg以上給与

出生からと畜までを地域内で完結するブランドは珍しくありませんが、その消費までを地域内で完結させようとする「つやま和牛」には、他のブランドには無い特徴があります。

3 これまでの取組

(1) つやま和牛創出基金事業

「つやま和牛」を実現させるためには、繁殖農家の皆さんのが安心して肥育に取り組める体制づくりが必要でした。そのため、津山市ではつやま和牛のブランド化推進を市の成長戦略に盛り込み、基金事業を創設することで農家をサポートする体制を整えました。

こうした支援により平成26年から「つやま和牛」の肥育が開始されましたが、初めて肥育に取り組む繁殖農家の皆さんのが苦労は大きかったと聞いています。

(2) 「つやま和牛」の流通販売の検討

「つやま和牛」の流通に向けて、地元高校生や高等専門学校の協力を得てロゴマークやホームページの作成に取り組むほか、先進事例からブランド牛の個体管理のノウハウを学び、地域一体で流通に向けての準備を進めてきました。



(3) 「つやま和牛」魅力創造シンポジウム

新たな地域ブランドの立ち上げに向けて、「つやま和牛」を使った地域力向上プラ

ン」というテーマの講演を盛り込んだシンポジウムを行いました。商工会議所や観光協会の方々にも出席いただき、今後の「つやま和牛」の販売戦略と方向性について、それぞれの立場から意見を交わしました。



(4) つやま和牛内覧会

3月24日には、津山国際ホテルにおいてつやま和牛内覧会を開催し、「つやま和牛」第一号が関係者等にお披露目され、ブランド牛として華々しいスタートを切りました。

会場では「つやま和牛」の販売も行われ、試食して美味しかったと早速買い求める姿も見られました。



4 「つやま和牛」のさらなる発展のために

(1) 究極の地産地消に向けて

内覧会での生産者代表挨拶に「地域活性化には地産地消、地域内の自給率の向上が必要」とありました。「つやま和牛」は、津山産の和牛を津山産の飼料で育て、津山で消費するというコンセプトのブランドです。

このコンセプトをより強固なものとするため、現在、地域内の食品事業者から排出される食品残渣及び副産物の飼料化を検討しており、地域内産の飼料の給与率をより

高くすることで、究極の地産地消を目指しています。

将来的には繁殖牛にも地域内産の飼料を給与したいと考えています。

(2) 地域内の飲食業・観光との連携

「つやま和牛」ブランド化に向けた動きが活発になっていく中で、つやま和牛振興協議会のPR部会として、津山商工会議所、作州津山商工会及び津山市観光協会等も加わる予定であり、行政や生産者のみではなく、他産業も含めた地域全体で「つやま和牛」を盛り上げよう！という気運が一層高まっています。

市内には「つやま和牛」を取扱いたいという思いからオープンしたステーキハウスもあり、新たなブランド「つやま和牛」への期待の大きさが伺えます。

5 おわりに

「つやま和牛」は第一号のお披露目を皮切りに、これから順次出荷が始まっていく予定です。津山市内の指定店でのみで購入し、そして食べる事ができます。指定店の「つやま和牛」入荷状況は「つやま和牛HP」(<http://www.tsuyama-f.net/wagyu/>)で確認できますので、是非津山に足を運んでみてください。

今はまだ頭数規模も小さく、ブランド化に向けてスタートを切ったばかりですが、まずは多くの皆さんに知っていただき、そして愛され、地域の「宝」として大きく育ち、畜産振興のみならず、新たな津山の観光資源として発展していくことを期待しています。



「つやま和牛」の今後に乞うご期待！

[家畜のページ]

受精卵移植の多様化と様々な利用法

津山家畜保健衛生所

1 岡山県における受精卵移植(ET)技術

本県では、ET普及開始当初から事業化等によりETを積極的に推進し、県有牛の卵供給を行うとともに、家畜において移植・採卵・凍結が実施可能な体制を構築しています。現在では、県内の和牛子牛生産頭数の2割近くをET産子が占めるなど、畜産現場に定着した技術となっています。

技術料を有償化した平成21年度以降も家畜の移植、採卵は順調に増加し、H27年度実績は、移植頭数1,500頭、採卵頭数200頭程度となる見込みです。

2 ET利用形態の概要

酪農家では、従来から乳牛雌牛生産を目的とした♀判別卵の利用や、子牛市場への出荷や借腹でのヌレ子販売用として、ETによる和牛生産が行われてきました。とくに和牛ETは、生乳生産による利益が出にくい昨今、重要な副収入源として重要度を増しています。

近年、人工授精(AI)より高い受胎率を背景に、繁殖改善対策としてのET技術利用も注目されています。新たな動きとしては、F1卵の利用が挙げられます。これは、繁殖改善目的でのET利用に特化したもので、安価なF1卵が繁殖不良牛への移植に利用されています。

和牛繁殖農家では、子牛価格の高止まりで生産意欲が増加し、採卵、乳牛の借腹による効率的な子牛生産が今まで以上に注目されているところであり、一部ではET目的にF1牛を繋養し、移植を実施する例もみられます。また、改良目的での自家所有牛への移植も行われています。

3 ET利用のケーススタディ

1) 発情見逃し牛へのET利用

酪農家Aでは、発情見逃しを補完するETを行っており、発情後1または2日後に出血したと仮定して、出血後5または6日目に移植を実施しています。過去7年間のETの平均受胎率は50.1%、年間40頭程度の実施となっており、農場内の受胎頭数の約5割を占めるなど、繁殖対策に大きく役立っています。

図1は、津山家畜で実施したETについて、発情確認された場合と、発情を見逃し、出血を発見しETを行った場合の受胎率を示しています。出血でのETでも40%以上の受胎率となっており、発情を見逃した場合でも、移植を行うことで十分に受胎が可能であることを示しています。

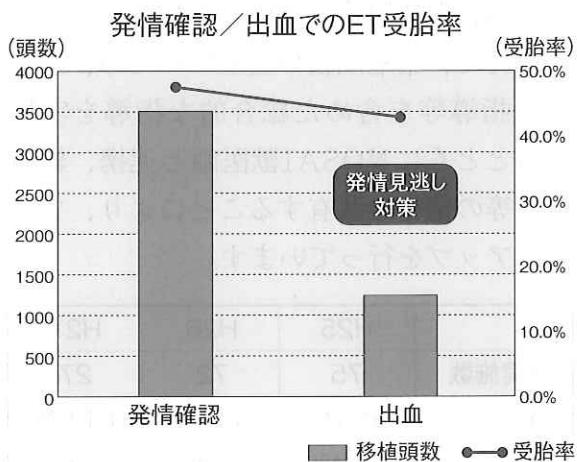


図1：発情見逃し牛へのET利用

2) ETの積極的利用による繁殖管理

ETの繁殖改善効果は発情見逃し以外でも認められています。図2は、管内ET実施農家5戸を対象として、60日毎の空胎日数別AIまたはET受胎率を調査した結果です。

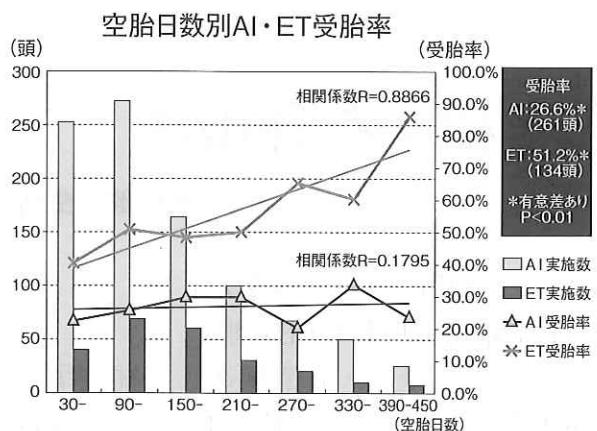


図2：繁殖改善対策としてのET利用効果

AI受胎率が26.6%、ETが51.2%とET受胎率が有意に高い結果となっており、かつ、すべての空胎期間でAI受胎率を上回る結果となっています。繁殖適期牛に限らず、長期空胎牛へのET利用についても十分に効果があることが示されています。

酪農家Bは、ETの繁殖改善効果に注目し、より積極的にETを利用、繁殖成績向上に成功した例です。

この農家では、AIによる繁殖成績が思わしくなかったため、家保によるET主体の繁殖管理に切替えを行いました。

加えて、繁殖成績の底上げのため、栄養管理指導等を含めた総合的な指導を実施するとともにNOSAI獣医師と連携、繁殖検診等の情報を共有することにより、フォローアップを行っています。

	H25	H26	H27
ET実施数	75	72	27
受胎率	42.7%	38.6%	61.9%
妊娠率	40.4%	51.4%	78.8%

妊娠率：受胎牛／分娩後60日以降経産牛(%)
(毎年12月時点)

図3：B農家のET実績と繁殖成績

その結果、図3のように、妊娠率は順調に上昇し、平均分娩間隔は472日（H26）から442日（H27）と30日の短縮が図られています。

3) F1受卵牛を利用した和牛増頭

和牛繁殖農家Cは、平成24年に新規就農し、和牛3頭での飼養を開始しました。50頭規模を目指に、効率的な増頭方法としてETを選択し、和牛の自家採卵を行い、F1牛に移植しています。ホルスタインF1牛より安価なジャージーF1牛を導入していることも特徴であり、ETでの利用を前提にF1牛を増頭し、ET実施数を増やしています。一部のF1牛は2産目を迎えており、F1牛を繰り返しETで利用することで繁殖素牛として活用し、今後も効率的に増頭を図っていく計画です。

年度	和牛繁殖頭数	F1頭数	F1牛移植数	受胎率
H24	3	0	—	—
H25	5	12	5	80.0%
H26	9	20	6	83.3%
H27	15	27	14	50.0%

図4：C農家のF1牛ET実績

4 家保の役割と今後の展望

このようにETの利用は多様化しており、家保はそれぞれの経営形態や利用目的に合うよう、各農家のET利用のプランニングや農家間ネットワーク形成のコーディネートを行うことで、農家の経営向上を図っています。また、未実施農家に対しては、それに合った利用方法を提案し、普及推進を図っていく予定です。

ETは今後も需要増加が見込まれており、需要増加に応えるためにも民間参入が不可欠です。家保では、研修会の開催等で民間ET技術者の養成強化を図り、民間との連携を強化し、ET利用の裾野を広げていくことが重要と考えています。

[技術のページ]

大麦WCSの調製と利用

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 飼養技術研究室

1 はじめに

畜産経営の安定化のためには、価格変動がなく安定的に確保できる自給飼料の活用方法が重要です。その一手法として麦WCSが注目されています。麦WCSは30年以上前に取り組まれましたが、当時の技術では、発酵品質が悪く嗜好性も良くないため普及しませんでした。一方、イネWCSは、近年調製技術が確立し広く普及しています。この技術を使うことで、麦も良質なWCSを調製することができます。飼料として利用されている麦類は大麦、小麦、エン麦、ライ麦、ライ小麦等がありますが、この中では、大麦は登熟が早く、嗜好性が良いことからWCS用麦として期待されています。そこで、大麦の調製と利用について紹介します。

2 収穫適期

(1) 収量

大麦の収穫適期は、水分がサイレージ調製に適した70%未満になり、乾物収量が多く、相対的に繊維成分が低下する糊熟（こじゅく）期とされています。

表 大麦（おうみゆたか）の収量
cm/kg/10a.%

区分	草丈	生重	水分	乾物重	出穂後日数
水熟期	80	2,966	78.5	638	10日
乳熟期	89	2,253	71.1	651	20日
糊熟期	85	2,670	65.8	913	30日
イネWCS		2,400		840	黄熟

イネWCSは、ハイグレードWCS基準値

県南部で栽培した大麦「おうみゆたか」の収量を表に示しました。水熟期、乳熟期、糊熟期はそれぞれ4月20日の出穂から10日、20日、30日目の成績です。生草収量は2,250～2,960kg/10aの範囲でしたが、乾物量は糊熟期には913kgと大きく増加しました。ただし、これは立毛での収量なので、イネWCSの基準値と比較すると、最終的な収量は若干劣っていると考えられます。

(2) 飼料成分

次に飼料成分ですが、生育ステージの進行に伴い子実の充実と繊維成分の低下が進み飼料価値が向上していました。糊熟期には水分も66%とサイレージ調製に適するまで低下しました。また、イネと比べてケイ酸が少ないためCA（粗灰分）が半分程度と少なく相対的に有機物含量が多くなり、栄養的には優れていると推測できます。

表 大麦（おうみゆたか）の飼料成分

DM以外はDM中%

区分	DM	CP	EE	NFE	CF	CA	ADF	NDF
水熟期	21.5	8.6	2.7	59.2	21.8	7.7	35.4	61.3
乳熟期	28.9	6.0	2.0	64.9	20.3	6.8	30.4	53.0
糊熟期	34.2	5.1	3.8	63.7	20.1	7.2	30.0	52.9
イネ黄熟期	38.6	6.5	2.0	53.5	24.6	13.6	28.8	48.3

イネは日本標準飼料成分表

各生育ステージの大麦をナイロンパック法（粉碎した飼料をナイロンパックに入れルーメンに浸漬して消失率を計測する方法）によるDM消失率を図に示しました。処理時間48時間では、糊熟期が有意に消失率が高くなりました。

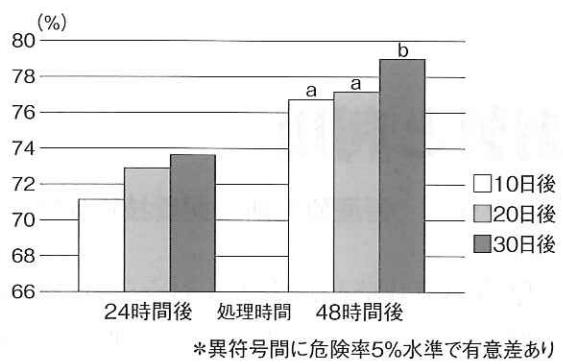


図 大麦(おうみゆたか)のDM消失率

(3) 発酵品質



写真 大麦収穫風景

フレール型のイネWCS用収穫機で調製したサイレージの発酵品質は、どのステージでもpHが4未満で、良質発酵の指標となるVBN（主としてアンモニア態窒素）／T-N（総窒素）が低く良質でした。酸の組成は乳酸が主体で良好でしたが、水熟～乳熟（出穂10～20日後）ではロールから排汁が多く、貯蔵中の変形があり実用的ではありませんでした。

表 ロールペールの発酵品質 %

区分	VBN			酸組成		
	pH	/T-N	総酸	酢酸	酪酸	乳酸
水熟期	3.8	6.6	4.03	16.2	0.1	83.7
乳熟期	3.6	6.2	3.18	34.7	2.0	63.2
糊熟期	3.5	5.9	5.07	14.0	0.9	85.2

これらのことから岡山県南部では出穂後30日程度の糊熟期が収穫適期であることが確認できました。

3 大麦WCSの飼料価値

糊熟期に収穫調製した大麦WCSで泌乳試験を実施しイネWCS（たちあやかの黄熟期）と飼料価値を比較しました。それぞれのWCSをDMで10%混合（現物で7kg/日・頭程度）した発酵TMRを調製し、乳用牛6頭に給与した成績を表に示しました。DMI（乾物摂取量）、乳量、乳成分に差はなく大麦WCSはイネWCSと同等の飼料価値があることが確認できました。

表 泌乳試験結果

区分	DMI	乳量	乳脂肪	乳蛋白	無脂固形	kg.%、mg/dl、万個/ml	
						MUN	SCC
イネ	21.8	24.7	3.53	3.52	8.95	9.1	7.8
大麦	21.4	24.5	3.59	3.71	9.05	10.1	5.3

4 まとめ

大麦は、出穂後30日前後で、DM収量が多くなり、成分的にも消化性が高まる糊熟期を迎えます。この時期に収穫することで良質のWCSを調製することが可能になり、イネWCSと同等の飼料価値が確認されました。

一方で、湿田での栽培に適していないこと、播種の遅れによる減収が大きいことなどの弱点もあります。

また、WCS用麦の栽培全般に当てはまることがありますですが、利用できる除草剤、殺菌剤など農薬の登録が無いので耕種的防除法を用いるなど留意してください。

なお当所では、寒さに強く、収量も多く、耐倒伏性が高い等の利点があるものの、消化性に劣るライ小麦について、WCSとして利用するため嗜好性、消化性の改善を目的とした試験を実施しているところです。

[畜産現場の声]

新たな取り組みと現場を支える輝くスタッフ

岡山JA畜産(株)美星鎌の畦農場

岡山JA畜産(株)では、美星鎌の畦農場を含む3つの養豚農場を経営し、母豚頭数の合計は1,300頭以上（平成27年度養豚農業実態調査）で県下最大規模となっています。新たな取り組みも進むなか、その全てに関わる同農場で、繁殖・哺育部門を担う小林香奈さん（表紙写真右端）に従業員としての率直な思いをお聞きしました。

まずは新たな取り組みから。①母豚の背脂肪厚測定による客観的なボディコンディションの確認。受胎率の向上や産子数の増加、子豚の離乳時体重の増加など多くのメリットが期待できるとのこと。



【測定中の小林さん】

②ブランド化に向けたBD種の生産。B=バークシャー種の雌とD=デュロック種の雄との交配で、見た目は三毛猫風（大部分が茶色ベースに黒斑点）。コクのあるサシの入った豚肉を目指しています。



【BD種の肥育豚】

その他、③国産飼料用米の配合率を50%まで高めた飼料の給与や④自家採取精液での100%人工授精の実現、挑戦が続きます。

小林さんの入社は平成20年の6月。豚から離れられない自分がいて、現社長（当時全農）の説きもあり実家から近い同農場に決めた。実は、入社前の3年間別の養豚農場に勤務していた。そこで出会った先輩の姿に今の自分の原点があると言う。あまり教えてくれる方ではなかったけれど、とにかく豚への愛情は凄かった。今、自分も本当に豚が好き。豚と一緒にいるのが幸せ。

だからこそ、気が抜けない、安心できる時はないのだと。日々状況が変わるなか、トラブルをいかに防ぐのか、どうしたら喜んでもらえるのか、元気にすくすく育つには何をすべきなのか、わが子と思うように試行錯誤と自問自答を繰り返している。

ただ現在、新人の教育や作業全体を見渡す立場もある。全てを自分でしたい気持ちがあるものの、農場としてうまく回すには、役割をはっきりさせ、誰がどこを担当しても安定した状態を維持することが求められる。効率が悪いと作業自体に追われ、心に余裕が持てず、ちょっとした変化を見落とすからと、過ごしやすさはもちろん、自分たちが飼いやすいように大工仕事もこなし施設の改良に努める。全ては豚のため。結果、手がかからない。自覚と理想を口にしつつ・・・、でも、どう考えても寂しい。昔のように、豚のことだけ考えてみたい、ずっと豚と触れ合ってみたい、と最後はやはり豚好きの本音が漏れた。

小林さんは、従業員の域に留まらず、全力で豚の幸せを考えておられました。今後の益々の活躍を期待してやみません。

岡山大学農学部附属山陽圏フィールド科学センター(津高牧場)の取り組み ～中国四国の各大学の学生を受入れて教育実習を行っています～

技術専門員 野久保 隆

平成2年10月から津高牧場に勤められている鹿児島県種子島出身の野久保隆 技術専門員に取り組みについてお話を聞かせて頂きました。

1. 概要

津高牧場は、岡山空港近くの吉備高原に昭和53年11月に開設され、38年間和牛の試験研究や学生の教育実習の場として重要な役割を果たしてきている。

現在は、和牛の成雌牛、育成牛43頭、子牛23頭、肥育牛2頭併せて68頭を職員2名で飼育している。草地は12.3haでイタリアンとソルゴーを栽培し、乾草やサイレージにしている。また、4月から11月までは、妊娠牛を放牧に出している。

2. 特色

(1) 改良

当初は岡山系統に特化していたが、平成6年頃からは受精卵や育種価の高い種雄牛の精液を活用して改良を進めてきた。また、25年間外部から導入牛を入れることなく、全て牧場内で生産した牛で選抜淘汰を進めてきた。その結果、優秀な子牛を生産できるようになり、近年は農家にひけをとらない価格で子牛の販売ができようになった。

さらに、岡山和牛推奨子牛の認定率は年々向上し、平成27年度は出荷子牛の36%、特に去勢牛は53%となり、昨年10月には適合頭数の部で最優秀賞を受賞することができるなど、飼育管理の技術も向上してきたと思う。

(2) 教育実習

2年生は、果樹、野菜、水田、畜産の農場実習を行うこととなっており、当牧場では、春4回、冬2回、約30人を対象に和牛の飼育や草地管理の実習を行っている。

また、中四国各大学が、各大学の特徴を活かして互いに実習を受け入れて単位の互換ができるようにしており、当牧場では9

月初旬に1週間、30~40人が宿泊施設に泊まり込みで、和牛審査・改良、草地管理、飼養管理、人工授精・受精卵移植等の実習を行っている。

しかし、「牛を見たことがない」「牛に触れたこともない」という学生が多いので、まず牛のブラッシングをさせるなどして牛に馴らすことから始めている。女性の方が積極的である。近年は、非農家出身が大半で、かつ女性が6割を占めていることから、知識や技術を身につけさせることの難しさを感じている。

(3) 飼育管理

飼料に生菌剤を使用しているため、糞尿の臭いがほとんどなく、牛を知らない学生でも臭いとは言わない。

また、土日、祝日は派遣会社の職員が管理しており、発情発見や分娩を見逃さないようにするため、牛歩計やカメラを設置しスマートフォンで適時確認できるようにしている。

3. 今後の取り組み

サイレージのタワーサイロからロール体系への転換や牛舎のバーンスクレッパー、バンクリーナー方式から平飼の追い込み牛房への改善を検討している。

また、出荷した子牛が肥育された牛肉を岡大農場産和牛肉として学内で販売し、好評を得ているので、さらに広めていきたい。さらに、堆肥の八浜農場のワラとの交換など、岡大の中で循環型農業をさらに推進して参りたい。



津高牧場

[ホットニュース]

平成27年度和牛シンポジウム真庭市で開催

子牛価格が高値で推移するものの高齢化や担い手不足による肉用牛生産基盤の弱体化が危惧される中、和牛生産者の意欲高揚と和牛生産の振興につなげるシンポジウムを平成28年3月18日(金)、真庭市鍋屋 久世エスパスセンター エスパスホールで開催しました。

本シンポジウムは(一社)岡山県畜産協会をはじめ全農等県下畜産6団体で構成する実行委員会の主催及び岡山県、真庭市の後援を得て、県北部を会場として毎年この時期に開催しており、和牛シンポジウムとしては14回目を迎えました。



今回は「今一度、確認しよう!! 日頃の飼養管理」をテーマに、紹介と講演を行いました。最初は県と当協会が開催する和牛入門講座7期生の総社市 本行孝至さんから「素人から牛飼いを始めて」と題しての紹介をいただき、牛飼いを始めた動機や苦労話、そして今後にかける意気込みが語られました。

続いて北海道在住で和牛子牛専門の獣医科医院さの・かーふさぼーとを開業されていると佐野公洋院長より「獣医師の教える飼養管理教室」と題した講演をいただきました。

子牛価格が高い今こそ母牛の適切な飼養管理で優良な子牛の生産が必要、など豊富な診療経験と知識に基づく種々の示唆に来場者は真剣に聞き入っていました。

今回の参加者は和牛飼育農家、行政、JA等関係団体で昨年より多い174名でした。

岡山県養豚振興協会主催第49回豚枝肉共励会を開催

岡山県養豚振興協会(会長:石原正敬、事務局:(一社)岡山県畜産協会)は、平成28年2月29日(月)から3月2日(水)の3日間、岡山県営食肉卸売市場において第49回豚枝肉共励会を開催し、3月2日(水)に審査と表彰式を行いました。

この共励会は、岡山県養豚振興協会が会員相互の交流と肉質の向上を目指して毎年10月と3月の2回開催しているもので、今回で49回を数えました。

今回の出品は、会員7農場から30組60頭の出品があり、品種別では、LWD26組52頭、W2組4頭、コツワルド2組4頭で、出荷日齢は平均180.8日、枝肉重量は平均77.3kgで、上物率は80%と好成績がありました。

審査は岡山県営食肉地方卸売市場の平本場長をはじめ5名の審査員で行われ、全般的に、もも張りときめしまりが良く、肉付きのバランスの整ったものが揃っている、との講評でした。

審査の結果、最優秀賞首席に岡山JA畜産(株)美星農場、最優秀賞2席に(有)協和養豚、最優秀賞3席に岡山JA畜産(株)吉備農場の出品豚がそれぞれ選ばれました。

午後1時から行われたセリでは、最優秀首席がkg当たり700円、全平均477円の高値で取り引きされました。

岡山県畜産関係者名簿 (平成28年4月1日現在)

部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名
畜産課 (20) 生産振興班	課長	中塚 陽二郎	美作県民局 (10)	農畜産物生産課長	岸戸 武士
	副課長	岡部 誠		総括副参事(畜産第一班長)	吉元 和明
	総括参事(生産振興班長)	菱川 雅弘		副参事	大谷 晴美
	副参事	川尻 鉄也		副参事	松馬 定子
	副参事	植田 幹隆		副参事	三木 隆司
	主幹	吉井 宏介		主任	高取 和弘
	主幹	岡田 英樹		(新採用) 技師	前川 真穂
	主幹	内田 啓一		総括副参事(畜産第二班長)	三宅 清
	主任	立川 優子		副参事	行森 美枝
	総括参事(衛生環境班長)	平野 充生		副参事	牧野 俊英
衛生環境班	副参事	安藤 恭治	岡山家保 (18)	所長	江本 正
	副参事	田原 鈴子		家畜保健衛生課 課長	橋本 尚美
	主幹	片岡 まどか		副参事	守屋 吉英
	主任	福田 新		副参事	森分 哲彦
	総括参事(経営流通班長)	津寺 春良		主幹	山内 章江
	副参事	河原 貴裕		主幹	金岡 孝和
	副参事	山本 伸二		主幹	佐野 通
	副参事	清水 淳也		主幹	佐藤 静子
	主幹	いざさ 啓介		主任	小出 康代
	主任	保田 憲一		主任	黒岩 恵
備前県民局 (7) (休) (再任用)	農畜産物生産課長	黒田 忠明	病性鑑定課 事務	主任	難波 かおり
	総括副参事(畜産班長)	正吉 輝彦		技師	谷口 翔
	副参事	内田 義男		課長	(所長兼務)
	副参事	脇本 進行		専門研究員	澤田 勝志
	副参事	串田 晴彦		専門研究員	別所 理恵
	主幹	藤原 裕士		専門研究員	出石 節子
	技師	吉田 由紀		研究員	澤井 紀子
	臨時事務職員(代替)	藤原 建紀		研究員	廣瀬 友理
		額田 和敬		技師	水上 智秋
備中県民局 (12) (休) (休)	農畜産物生産課長	広金 弘史	井笠家保 (10)	所長	多賀 伸夫
	総括副参事(畜産第一班長)	藤原 努		次長	澤田 健二
	副参事	池田 克美		副参事	西川 真琴
	主幹	塩田 鉄朗		副参事	平井 伸明
	主幹	石川 和人		主幹	横内 淳一郎
	主幹	朝倉 麻由子		主幹	橋田 明彦
	主任	宮本 康子		主任	高崎 緑
	主任	武藤 多佳子		主任	児子 友美
	技師	綱島 優子		主任	荒木 由季子
	臨時事務職員(代替)	廣田 謙		技師	山口 葵
	総括副参事(畜産第二班長)	遠藤 広行			
	副参事	川口 泰治	高梁家保 (9)	所長	田林 宏一
	技師	田中 康裕		次長	平田 祐介
				副参事	岡田 ひろみ
				副参事	秦 守男
				副参事	高見 剛
				副参事	坂部 吉彦
				主幹	武繩 勝浩
				主幹	田中 静香
				主任	横内 百合香

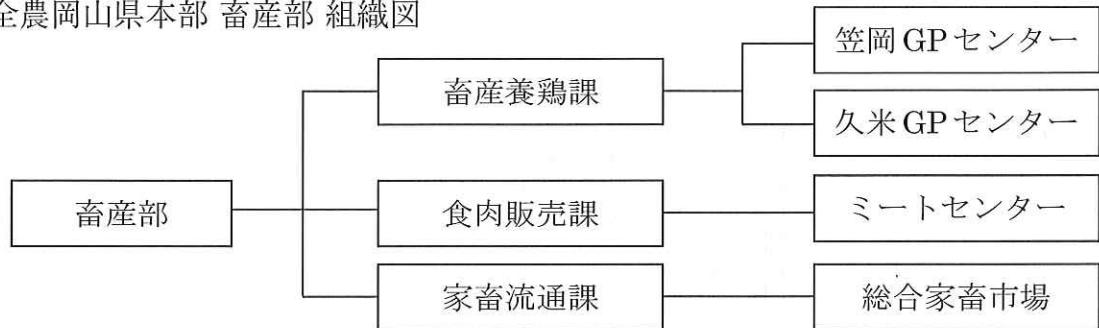
部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名
真庭家保 (10)	所長	松長 清美	(養豚研究グループ)	グループ長	(改良技術研究室長兼務)
	次長	中村 浩三		専門研究員	佐々木 真也
	副参事	権代 将人		主幹	湛増 美好
	主幹	田中 健嗣		主幹	高山 熱
	主幹	馬場 彩		主事	福島 満志
	主任	笛尾 浩史		主任	上田 利男
	主任	紙谷 建志		グループ長	中原 仁
	主任	梯 洋介		専門研究員	有安 則夫
	技師	田中 恵		研究員	金谷 健史
	技師	森 真理子		飼養技術研究室	木曾田 繁
津山家保 (14)	所長	山田 徹夫		室長 (特別企画専門員)	滝本 英二
	総括参事	森 尚之		専門研究員	黒岩 力也
	副参事	小阪 和正		技師	西村 祐枝
	副参事	萱原 佳美		主幹	山田 庄市
	主幹	西 淳子		主幹	富田 康
	主幹	中山 裕貴		主幹	大平 嘉秀
	主幹	定森 淑子		主任	福島 敏道
	主任	岡村 涼平		グループ長 (特別研究員)	長尾 伸一郎
	主任	福島 成紀		専門研究員	田邊 裕司
	技師	光宗 仁美		(新採用) 技師	三宅 歩
事務	技師	杉本 裕亮		主幹	定賀 和夫
	技師	石川 晶子		主幹	服部 一洋
	技師	小山 典子		主幹	安藤 芳宏
	技師	宇高 成美		主幹	有富 勝仁
	(新採用) 技師			主幹	杉山 卓
農林水産総合センター 総務課 (畜産研究所駐在)	次長	栗木 隆吉	食肉市場 (10)	場長	河原 宏一
	副参事	西村 江理子		次長 (総務課長)	黒崎 文彦
	主幹	樋口 久男		副参事	登尾 哲次
	主幹	北原 一男		主任	森田 忠義
	(再任用) 主事	殊井 麗子		業務課	井上 信治
畜産研究所 (43)	所長	平本 圭二		課長	眞木 元
	副所長	馬場 誠		主幹	難波 浩
	経営技術研究室	大谷 啓介		主任	妹尾 直樹
	室長 (特別企画専門員)	山本 康廣		主任	荒金 知宏
	特別企画専門員	斎藤 浩史		主任	小林 宙
	グループ長	森山 靖成			
	専門研究員	高取 健治			
	専門研究員	森清 邦彦			
(環境研究グループ)	技師	白石 誠			
	グループ長	水木 剛			
	専門研究員	砂原 一彦			
	室長 (特別企画専門員)	片岡 博行			
	グループ長	小田 亘			
改良技術研究室 (育種改良研究グループ)	研究員	岡本 雄太	酪農大学校 (2)	校長	山田義和 (OB)
	研究員	石黒 早百合		副校長	秋山 俊彦
	(新採用) 技師	福井 康勝		課長 (副校長兼務)	(秋山 俊彦)
	主幹	村田 和弘		技師	金谷 真澄
	主幹	岡本 元正			
	主任	横山 明彦			
	主任	定本 譲			
	主事				
(再任用)					

岡山県農業共済組合連合会

平成28年4月1日

家畜部 家畜課 TEL 086-224-5596 FAX 086-225-7064	部長	植義友
	課長	日下知加久
	課長補佐	鴨井敏則
	主任	水戸康明
	技師	池山歩惟
	嘱託	西村一道
生産獣医療支援センター TEL 0867-22-1500 FAX 0867-22-1194	所長	亀森泰之
	次長	西山篤
	主任	荒木勇介
	技師	根木慶彦
	技師	齋藤愛
	技師	佐藤佳美
南部家畜診療所 TEL 086-943-6888 FAX 086-943-7703	所長	高市直登
	主任	久田野歩
	技師	石田和子
	嘱託	井戸昭一
	臨時	岡本麻衣
	所長	前原健成
西部基幹家畜診療所 TEL 0865-64-4141 FAX 0865-64-2926	次長	正木丈博
	主任	池山亨
	主任	石井さやか
	技師	村上正浩
	技師	松尾みなみ
	嘱託	岩原幸治
西部家畜診療所 TEL 0866-22-2211 FAX 0866-22-0358	臨時	小野好恵
	所長	村田一人
	主任	畦崎正典
	技師	渡邊卓彌
	技師	富永由香
	臨時	中笠良恵
西部家畜診療所新見支所 北部基幹家畜診療所 TEL 0868-26-1112 FAX 0868-26-6632	副主幹	大屋卓志
	所長	藤井多加治
	次長	杉山定
	主任	田村展敏
	副主幹	西川達也
	主任	江草佳彦
真庭家畜診療所 TEL 0867-44-2164 FAX 0867-44-5319	技師	神田遙子
	技師	若槻拓司
	技師	上総亜由奈
	技師	高岡亜沙子
	嘱託	谷孝介
	臨時	小林直子
真庭家畜診療所 TEL 0867-44-2164 FAX 0867-44-5319	所長	山謙
	技師	森田康広
	技師	宇野進
	嘱託	西原直
	臨時	古谷和江
	所長	犬間一郎
蒜山家畜診療所 TEL 0867-66-2517 FAX 0867-66-4626	主任	森本高輝
	主任	本田直樹
	技師	峰田大志
	嘱託	金盛隆志
	臨時	宮本美佐枝

全農岡山県本部 畜産部 組織図

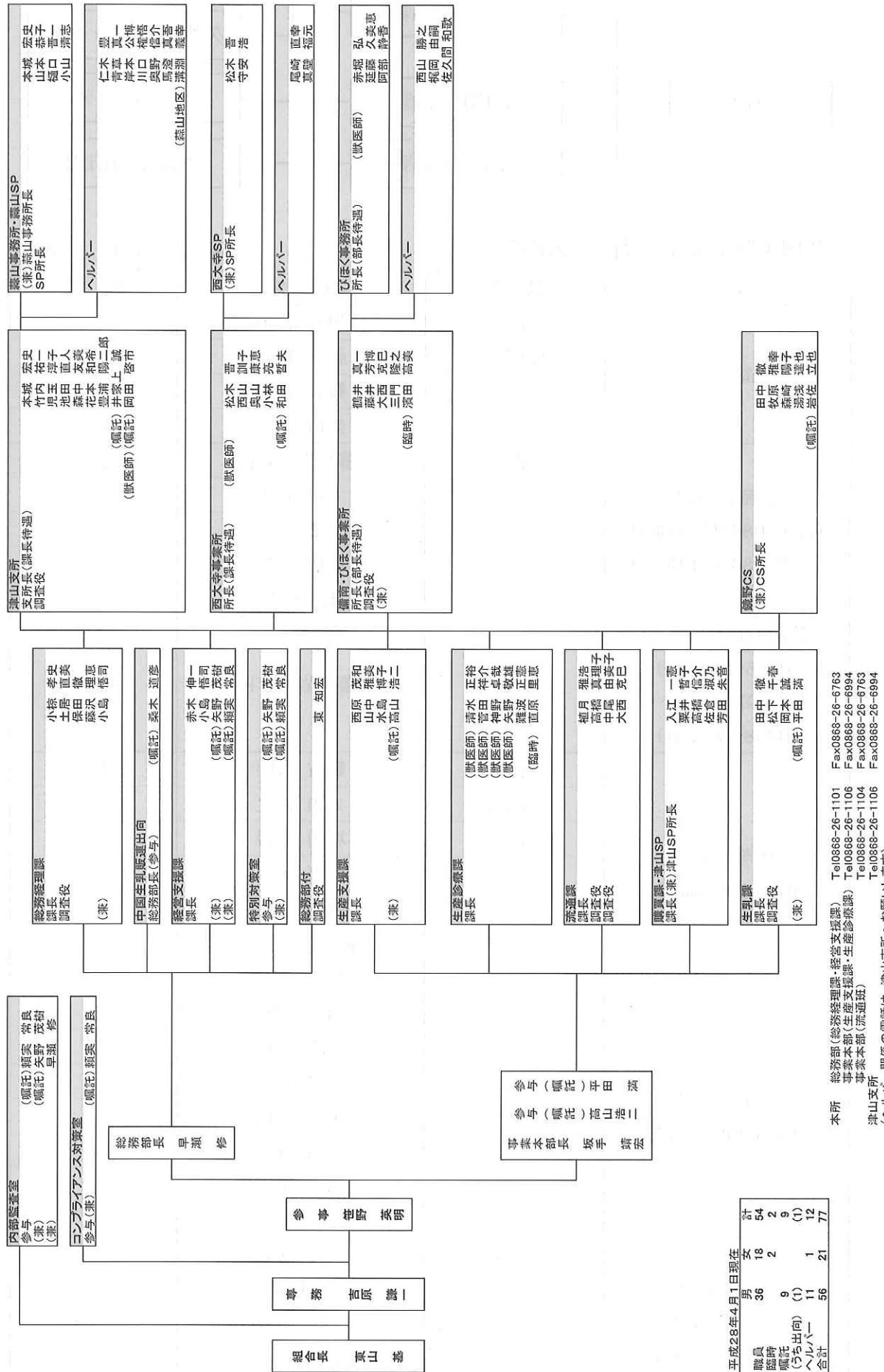


全農岡山県本部 畜産部 人事配置

平成 28 年 4 月 1 日現在

部・課	職名	氏名	備考
畜産部	部長	川崎 敦史	
	監理役	藤原 雅人	
	次長	難波 智明	兼務
	次長	柴田 憲志	兼務
畜産養鶏課 (畜産 086-234-6884) (養鶏 086-234-6885)	課長	暮地岩 有斗	兼務
		太田 衣美	
		中本 祥子	
		楨場 勇貴	
		原 千秋	
笠岡 GP センター (0865-62-5131) 久米 GP センター (0868-57-3911)	センター長	暮地岩 有斗	兼務
食肉販売課 (086-296-5033)	課長	難波 智明	兼務
	専任課長	太田 裕之	
	専任課長	堀田 文博	
		西野 芳仁	
		阿食 趟正	
		福島 美津子	
		森川 修治	
ミートセンター (086-296-5088)	センター長	藤原 哲	
		大隅 義仁	
		中村 倫政	
		木下 貴博	
		佐藤 茂	
		川上 圭太	
		廣重 和秀	
家畜流通課 総合家畜市場 (0867-42-5333)	市場長	柴田 憲志	兼務
	課長	西江 聰	
		小野 隆人	
		小椋 一広	
		植田 淑江	

おかやま酪農業協同組合機構図：平成28年4月1日付

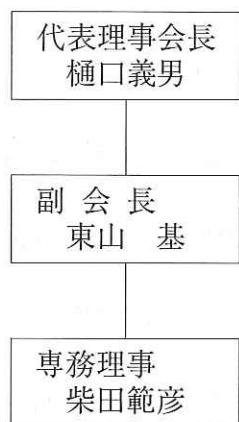


職員	男	女	計
職員	36	18	54
臨時	2	2	4
嘱託	9	9	18
(うち出向)	(1)	1	(1)
合計	56	21	77

平成28年4月1日現在

本所 総務部(総務経理課・経営企画課) Tel0868-26-1101 Fax0868-26-0763
事業本部(生産企画課) Tel0868-26-1106 Fax0868-26-0994
事業本部(流通部) Tel0868-26-1104 Fax0868-26-6763
津山支所 Tel0868-26-1106 Fax0868-26-6994
(ヘルパー関係の電話は、津山支所へお願いします)

平成28年度 一般社団法人岡山県畜産協会組織図
(平成28年4月1日)



企画管理部 (TEL 086-221-0511) (FAX 086-234-6031)
部長 大塚 武宣 調査役 小山 雅子 主事 井戸本由美
経営支援部
経営対策班 (TEL 086-222-8575) (FAX 086-234-6031)
班長 目瀬 勤 副調査役 永原 瞳恵 副調査役 池見 亮 技師 高尾 奈々 嘱託職員 本松 秀敏
価格対策班 (TEL 086-234-5981) (FAX 086-223-4755)
班長 築山 伴文 嘱託職員 和田 直美 嘱託職員 西家 純一
家畜衛生部 (TEL 086-232-8442) (FAX 086-234-6031)
部長 大塚 武宣 (兼務) 審議役 貝原 裕彰 参考与 山本 幹男 参考与 中山 敏之 参考与 岡田 耕平 臨時職員 西林 由子
家畜衛生管理センター (TEL 0876-27-3101) (FAX 0867-27-3102)
臨時職員 佐々木 太 臨時職員 岡田 保
生乳検査センター (TEL 0868-54-7366) (FAX 0868-54-7368)
所長 小田 賴政 審議役 宇谷 修 技師 村上 恭子 嘱託職員 本田 正司 嘱託職員 植木 美穂 嘱託職員 久光 京子 臨時職員 安藤 智子

岡山県畜産関係各種協議会名簿一覧

(平成28年4月1日現在)

名称	会長	事務局
岡山県家畜人工授精師協会	大森 進	岡山県畜産課
岡山県酪農業協会	東山 基	おかやま酪農業協同組合
岡山県産牛肉銘柄推進協議会	草苅 完治	全農岡山県本部畜産部
岡山県産豚肉消費促進協議会	草苅 完治	岡山県食肉荷受(株)
岡山県養鶏協会	安原 健二	鳥城養鶏農業協同組合
岡山県ふ卵協会	山上 祐一郎	鳥城養鶏農業協同組合
岡山県装削蹄師会	平井 計行	岡山県農業共済組合連合会
岡山県養蜂組合連合会	鈴木 康正	鈴木養蜂場
岡山県和牛子牛資質向上対策協議会	川崎 敦史	岡山県畜産協会
岡山県畜産経営総合支援協議会	藤原 雅人	岡山県畜産協会
岡山県馬事畜産振興協議会	樋口 義男	岡山県畜産協会
岡山県養豚振興協会	石原 正敬	岡山県畜産協会
岡山県コントラクター協議会	石原 聖康	岡山県畜産協会

オールインワンが自信を持ってお届けします

DAIRY GEL
Complementary feed for bovines
ボバイン デーリィ ジェル

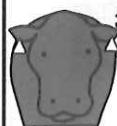
牛用栄養補助飼料

約88%

乳牛・肉牛飼料の専門メーカー
株式会社オールインワン

中国支店 〒710-0826 岡山県倉敷市老松町1丁目2-40-101
TEL (086) 427-6300 FAX (086) 427-6011

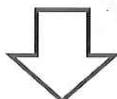
[Q&Aコーナー]



牛マルキン（肉用牛肥育経営安定特別対策事業）の 無事戻しの方法が変わります。



現在契約中の牛マルキンは平成28年3月期の補てん金交付をもって業務対象年間が終了し、当会の基金に残額がある場合には生産者の皆様へ生産者積立金分を返還しますが、この方法が一部変わります。



まず**在庫牛**への優先返還を行います

新たな業務対象年間に積立金を納付するために、納付いただいた積立金相当額を基金の残額の範囲内で、返還します。

「在庫牛」とは？

業務対象年間に積立金を納付した牛で、販売されたことが確認できていない牛のことです。平成28年3月31日までに死亡や繁殖供用等で異動となる牛は含まれません。

Q1. なぜ優先返還をするの？

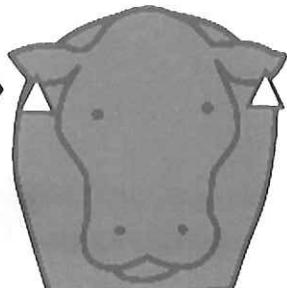
新たな業務対象年間が始まると基金に繰越金がないため、**補てん金交付の財源が不足する可能性**があります。改めて積立金を納付していただくことで、これを回避することが目的です。

Q2. 優先返還の対象外は、無事戻しがないの？

優先返還を行った後の基金に残高があった場合には、これまでどおり優先返還額を除いた積立金納付額に応じて返還します。

新たな業務対象年に牛マルキンの契約を締結した場合には、**優先返還対象となった在庫牛の頭数分の積立金を平成28年度の積立金単価で一括納付**していただきます。（積立金の一括納付は優先返還後に行います。）

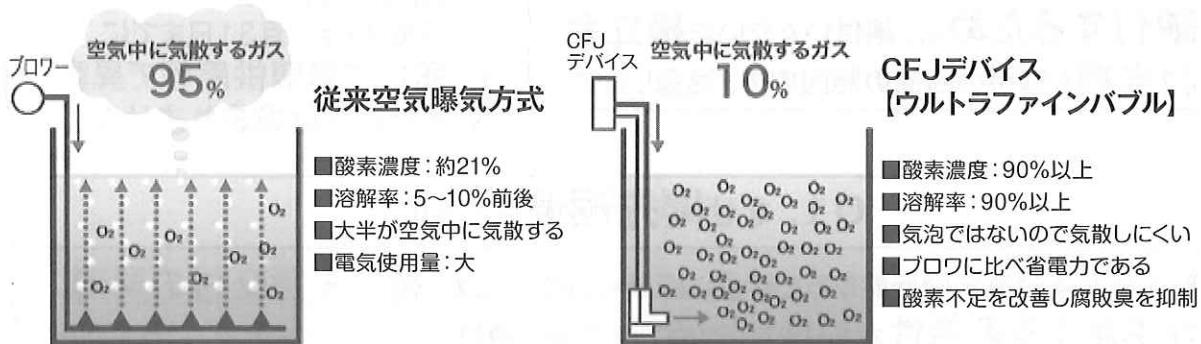
平成28年4月1日以降に異動の事実があった牛については、当会からお知らせする基準日までに異動報告をいただいた場合、積立金納付の対象外となります。



画期的汚水浄化処理装置



従来の空気曝気とは違い、濃縮酸素をウルトラファインバブル化して溶解します
(→ナノレベル化)



導入効果

- 処理能力UP・水質改善
- 臭気の抑制
- ブロワ電力量の削減
- 汚泥量の削減



山陽施設工業株式会社
SANYO SHISETU KOGYO Co.,Ltd.

〒701-0144 岡山県岡山市北区久米248番11号
TEL:086-242-0111 FAX:086-241-4702
URL:<http://www.sanyoshisetu.co.jp>

FOSS

■安全性評価用ラインナップ

食品安全への関心はますます高まっています。米国チャーム社の生乳の分析ソリューションは特定の抗生物質の残留から、幅広い抗菌性物質の残留、または高感度の生乳中のアフラトキシンの分析で世界中で幅広く使用されています。

チャームROSAテスト(生乳用)

ピルリマイシンキット
ベータラクタムキット
テトラサイクリンキット
キノロンキット
サルファキット
アフラトキシンキット他

チャームROSA-Mテスト(マイコトキシン用)

アフラトキシンB₁/B₂
DON・ゼアラレノン
フモニシン
オクラトキシン他

Charm EZ-M

米国Charm社のイムノクロ的システムに新シリーズ登場。インキュベーターとリーダーが一体化。読み取りモードはカラータグが自動で選択します。



ブルーアイエローテスト/カウサイドテスト

手軽なバイオアッセイキットは生乳用ROSAシリーズより幅広い阻害剤を検出します。



ROSAリーダー

ROSAインキュベーター



■2015年7月1日 大阪営業所 OPEN!!

foss・ジャパンは7月に大阪に新オフィスをOPENいたしました！
スタッフも増え、より一層邁進してまいります！！

■場所：

阪急千里中央ビル

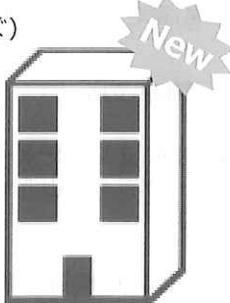
(豊中市新千里東町1丁目4番1号)

■最寄駅：

北大阪急行「千里中央駅」(下車すぐ)

■アクセス：

- 北大阪急行電鉄
地下鉄御堂筋線→北大阪急行
- 大阪モノレール



Dedicated Analytical Solutions

fos・ジャパン株式会社

○東京本社

〒135-0016 東京都江東区東陽2-4-14
三井ウッディビル 1階

TEL03-5665-3821 FAX03-5665-3826

○大阪営業所

TEL06-7174-8550 FAX06-7174-8551

○札幌営業所

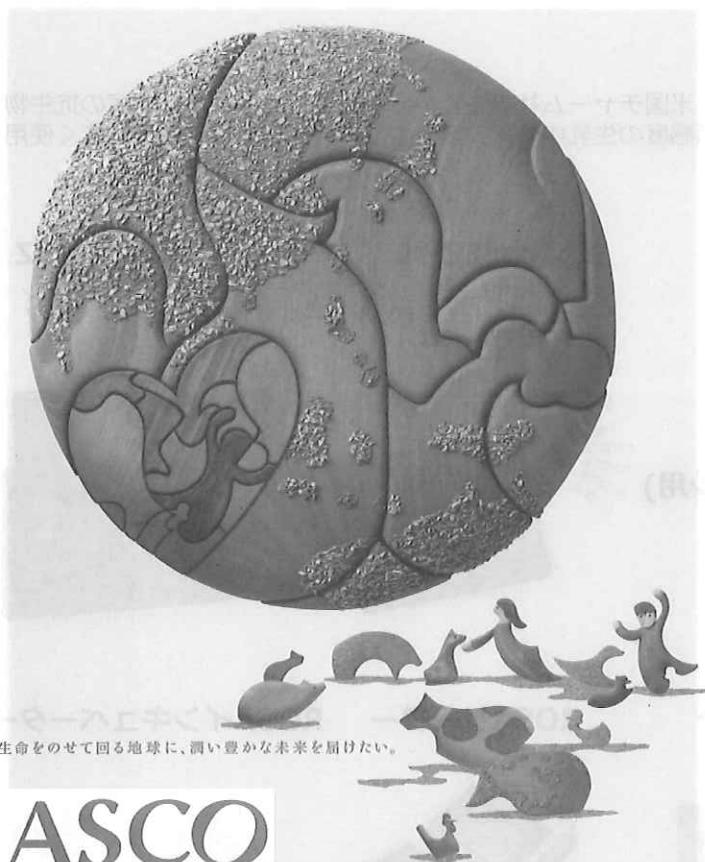
TEL011-518-1831 FAX011-518-1833

○九州営業所

TEL096-292-8681 FAX096-292-8682

E-mail:info@foss.co.jp

URL: www.foss.co.jp



ASCO

株式会社 **アスコ**
<http://www.asco.sala.jp>

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

営業所
所在地

- ・東日本支店
児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
東京、大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、福山、山口、米子、岡山
大阪、京都

動物用医薬品 総合商社 **AMPアグロ** 株式会社

取扱品目

動物用医薬品、医薬品、飼料添加物、混合飼料、
動物用機器・機材、土壤検査器具・機材 他畜産関連商品

事業所一覧

本 社	〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13	TEL 011-376-3860	FAX 011-376-3450
岡山オフィス	〒700-0822 岡山県岡山市北区表町3丁目5番1号	TEL 086-224-1811	FAX 086-224-1819
AHSC西日本	〒703-8256 岡山県岡山市中区浜1丁目10番5号	TEL 086-270-9510	FAX 086-270-8371
御津物流センター	〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1	TEL 0867-24-4816	FAX 0867-24-4882

【中国営業部】

岡山支店 〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1
広島支店 山口支店 鳥取支店 島根支店

TEL 0867-24-4880 FAX 0867-24-4889

【四国営業部】高松支店 德島支店 松山支店 宇和島支店

【近畿営業部】京都支店 大阪支店 兵庫支店

【北海道営業部】札幌支店 函館支店 旭川支店 帯広支店 北見支店 鉾路支店 東京支店

【東北営業部】青森支店 秋田支店 盛岡支店 一関支店 山形支店 仙台支店

【北九州営業部】福岡第一支店 福岡第二支店 熊本支店

【南九州営業部】宮崎支店 鹿児島支店 鹿屋支店

【食品営業部】福岡食品支店 宮崎食品支店 鳥栖食品支店 唐津食品支店 東京食品支店

※AHSCはアニマルヘルスサポートセンターの略称です

高知競馬開催案内

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

5月				6月			
開催日	備考	開催日	備考	開催日	備考	開催日	備考
1日	○ナイター	17火		1水		17金	
2月		18水		2木		18土	○ナイター
3火		19木		3金		19日	○ナイター
4水	○ナイター	20金		4土	○ナイター	20月	
5木		21土	○ナイター	5日	○ナイター	21火	
6金		22日	○ナイター	6月		22水	
7土	○ナイター	23月		7火		23木	
8日	○ナイター	24火		8水		24金	
9月		25水		9木		25土	○ナイター
10火		26木		10金		26日	○ナイター
11水		27金		11土	○ナイター	27月	
12木		28土	○ナイター	12日	○ナイター	28火	
13金		29日	○ナイター	13月		29水	
14土		30月		14火		30木	
15日		31火		15水			
16月		ナイター(15:30~20:50)		16木		ナイター(15:30~20:50)	

ホツトニユース

岡山県馬事畜産振興協議会(事務局 岡山県畜産協会)は、平成28年3月1日(火)に高知競馬場において、「岡山県ももたろう特別」競走の第2回目を開催しました。

レースは、第5R、サラ系で、イツモシアワセ号(馬主(株)オート・エース)が勝利し、馬主や騎手の皆さんに、おかやま和牛肉を贈呈しました。



あとがき

万物にエネルギーみなぎる春の到来。当協会も、9年ぶりの大卒採用(女子1名)を含め、計3名の新しい職員を迎えて新年度がスタートした。

ちなみに彼女が当協会への就職を希望した動機は、『…我が国の畜産は、飼料価格の高騰や高齢化・後継者不足といった様々な問題を抱えている。一方、6次産業化や耕畜連携といった新たな取り組みにも果敢に挑戦していることを研究室で学んだ。このような農の現場を支えるために、知識の習得はもちろんのこと数値による経営分析をしたり、経営者の方々との対話を大切にしたりして、生産者・消費者・地域を豊かにすることに貢献したい…』といったことである。フレッシュな視点で畜産業を牽引してくれるものと期待している。

さて、TPPの行方が見通せない中で畜産農家の意欲低下が懸念されているが、当協会では本年度も趣向を凝らした様々な取組や現状報告を通して、畜産農家のモチベーション向上に寄与していきたいと考えている。

本年度もご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(N·S)

岡山畜産便り 4月号(春季号)

第67巻 第3号(通巻662号)

平成28年4月25日発行

定価250円(消費税・送料込)

発行人 樋口義男 編集人 柴田範彦

発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階

TEL 086-222-8575 FAX 086-234-6031

印刷所 ノーアイン株式会社

取扱品目のあるまし

動物用ワクチン・血清類一切、獣医畜産用薬品全般

家畜・家禽の飼料添加剤各種、獣医畜産用器具機械類

衛生材料(ガーゼ・脱脂綿・繩帶・その他)

土壤関係検査測定器具・試薬



JYUCHIKU Co., Ltd.

株式会社 ジュウチク

岡山市北区奉還町4-4-11 岡獣ビル内 TEL 086-214-2288
FAX 086-214-2287

果物・野菜用
植物活力剤

乳酸菌系葉面散布剤

ラクトのチカラ

細胞の活性化 生育促進



使用目安(方法) 良くまぜてからお使い下さい。育苗時・本圃定植後に500倍~1,000倍に水で希釈し葉面に散布してお使い下さい。施用回数は7日~10日に1回が目安です。生育状況に応じて散布回数を調整して下さい。使用後は噴霧機など機器内に希釈液が残らないように洗い流して下さい。目の細かい機器を使用する際は、目詰まり防止のためフィルターをご使用下さい。

(植物活力剤) [窒素・リン酸・カリ 各 1% 未満] [成分:豆乳・ブドウ糖・クエン酸・乳酸菌] [保存上の注意:乳酸菌等の働きにより、ガスが発生する場合があります。希釈した液は保存できませんので、その日の内に使い切って下さい。開封後はなるべく早く使い切って下さい] [飲用不可]

土耕栽培なら
灌水チューブで水と一緒に流してOK!
根張りが 良くなる! 活着促進! 育苗日数 短縮!



製造総販売元
フタバ飼料株式会社 バイオ事業部

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1
TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870
e-mail:info@futabashiryo.co.jp